

はながたぎょうよう 花形杏葉

ぎょうよう 杏葉とは…

杏葉とは、馬の胸や尻の部分の革かわ帯おびにぶら下げた馬具です。権力者が馬を飾り立てて力を誇示こしするために作られたもので、船原古墳では心葉形しんようけい（ハート形）、花形はながた、棘葉形きよくようけい（先の尖った葉っぱの形）といった様々な形のものが見つかっています。



杏葉の取り付け位置

花形杏葉の基本情報

花形杏葉は、蓮の花托かたく（花が枯れた後に花の中心の茎の先端が実を付けるために肥大化した部分）を上から見た様子をデザイン化したと考えられている杏葉です。船原古墳で見つかったものは、三角文を一つと円文を六つ配置して、その周囲を縁取り、花形としています。

船原古墳1号土坑では、花形杏葉が3点見つっていますが、これらと同じ形の鏡板を付けた轡あぶらも見つかっており、一揃いで作られたと考えられます。



花形杏葉の復元 CG



蓮の花（中心の部分が花托になる）

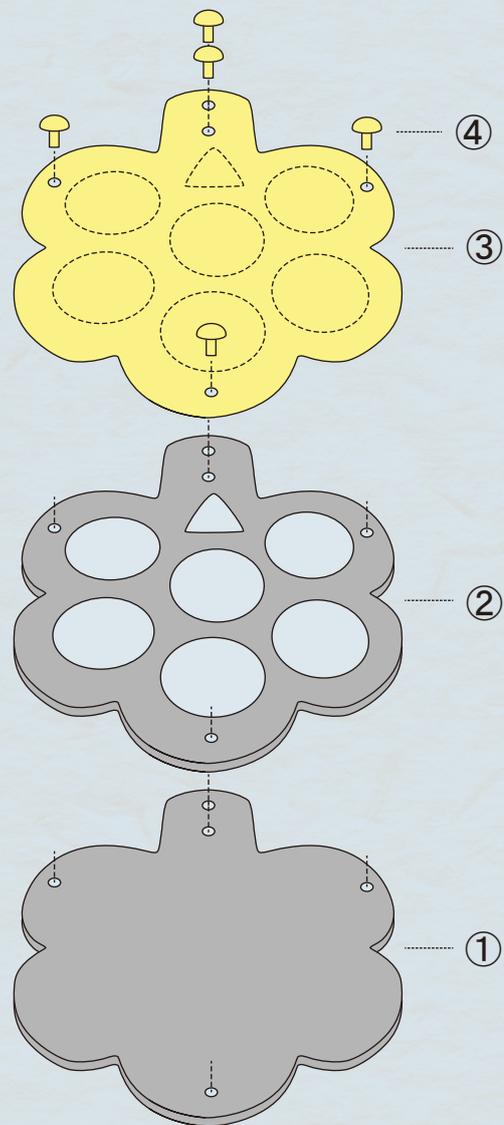
花形杏葉は、①地板の上に②文様板を重ね、その上に③金銅板をかぶせて④鋳で留めています。地板と金銅板はどちらも立間（杏葉の上、突出している部分）まで一体で作っており、鋳はこの立間の部分に2か所と縁の部分に3か所、計5か所打っています。

文様板は、三角文と円文の部分を削り抜いています。この文様板を地板に重ねて、その上から金銅板をかぶせて圧着させているため、表からみると文様部分が窪み、量感を与えています。

花形杏葉の特徴

船原古墳の1号土坑からは、多くの馬具が見つっていますが、その中には馬冑や蛇行状鉄器、ガラス装飾付雲珠と辻金具、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡、鳳凰文心葉形杏葉など朝鮮半島、特に新羅との関わりがうかがわれるものがあります。

一方、ここで紹介した花形杏葉やこれと組み合う花形鏡板付轡は、日本列島の各地で見つっていますが、中国や朝鮮半島では発見されていないため、日本列島で製作された馬具と考えられます。さらに、このような花形馬具を所有することが、他の地域首長と比べてより深く中央政権とのつながりを持っていたという可能性を説く研究者もいます。このような馬具の存在は、船原古墳の被葬者が近畿の中央政権を中心とした支配体制の中で、重要な役割を担う人物であったことをうかがわせます。



花形杏葉の層状構造の図解



6世紀後半頃の朝鮮半島と日本列島の地図